

## 第6次知多市総合計画審議会〔第3回〕

【日時】平成30年11月13日（火） 午後3時～5時

【場所】知多市役所1階多目的会議室

### 【出席者】

会長 吉村輝彦 日本福祉大学 国際福祉開発学部 学部長・教授  
副会長 入江容子 愛知大学 法学部 教授  
生田祐江 市民ワークショップ「未来にツナグ会議」参加者  
市野 恵 特定非営利活動法人 地域福祉サポートちた 代表理事  
片山麻有 愛知県男女共同参画人材育成セミナー修了者  
河村康英 社会福祉法人 知多市社会福祉協議会 副統括監兼総括主任  
久野美奈子 特定非営利活動法人 起業支援ネット 代表理事  
近藤通哉 株式会社 日本政策金融公庫 熱田支店長  
榊原秀敏 あいち知多農業協同組合 営農部 知多営農センター長  
竹内栄道 知多市商工会 監事  
竹内徳得 知多市観光協会 副会長  
竹内 誠 知多市コミュニティ連絡協議会 会長  
富田敬子 市民ワークショップ「未来にツナグ会議」参加者  
長倉剛士 日本労働組合総連合会 愛知県連合会 知多地域協議会 代表  
野尻紀恵 日本福祉大学 社会福祉学部 准教授  
松本幸正 名城大学 理工学部 教授  
峯神亜由美 知多メディアスネットワーク株式会社  
営業部集合・法人グループ グループリーダー  
吉川佳代 知多市社会教育委員  
(事務局)

【欠席者】高山博好 環境省 環境カウンセラー  
水内智英 名古屋芸術大学 芸術学部 准教授 国際交流センター長

【傍聴者】6名

### 【議事次第】

- 1 会長あいさつ
- 2 議題
  - (1) 市民参画の取組について
  - (2) まちづくりの方向性について
- 3 その他

## 【会議の概要】

### 1 会長あいさつ

[事務局]

事務局の企画情報課長、細川です。

会議開催に先立ちまして、お願いがございます。

前回と同様でございますが、会議の内容をホームページなどに掲載してまいりますので、記録のために写真撮影をさせていただきますので、ご了承ください。

なお、本日の会議におきましては、日本福祉大学の野尻委員が遅れて到着すると伺っております。また、環境省環境カウンセラーの高山委員、名古屋芸術大学芸術学部の水内委員、お二人より欠席のご連絡を頂いております。本日、出席者は17名で定足数に達しております。

それでは、会長、よろしくお願いいたします。

[吉村会長]

皆さんこんにちは。前回の8月27日以来、2か月以上経ちました。この間に、いろいろな取組が行われた結果を受けて、今日は皆さんの意見を伺いたいと思います。

それでは、ただいまから、第3回知多市総合計画審議会を開催します。

委員の皆様には、お忙しい中ご出席頂き大変ありがとうございます。

本日の会議では、第2回と同様に2つのテーブルに分かれて議論を進めてまいります。これは前回もそうですが、限られた時間の中で様々な視点、専門性を持つ皆さまからできるだけ多くの意見や想いを披露して頂き、共有していきたいという趣旨ですので、ぜひご協力頂ければと思います。

今回は、前回と異なるテーブルのメンバーとなっています。前回お話ししたと重なる部分があるかもしれませんが、審議会メンバーがどのような想いを持って参加しているかを共有しながら議論を進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

## 2 議題

### (1) 市民参画の取組について

[吉村会長]

早速ですが、議論に入ります。まず議題1「市民参画の取組について」から進めてまいります。まずは事務局から説明をお願いします。

[事務局]

【配布資料の確認】

【「第6次総合計画の策定フロー」について説明】【資料1】

【「市民インタビューからの主な意見」について説明】【資料2】

【「未来の知多市のまちづくりに活かすことができる市の魅力」について説明】【資料3】

【「市民が期待する未来の知多市」について説明】【資料4】

[吉村会長]

市民意識調査、市民インタビュー並びに市民ワークショップの結果から、どのようなことが言えるのかについての報告でした。

ただ、市民意識調査から、また、インタビューの対象者、ワークショップ参加者からの想いが、見方によっては必ずしも届いていない、あるいはこちらからアウトリーチできていないこともあるかと思えます。事務局の今の整理の中から、市民が期待するまちづくりやその方向性について、テーブルごとに議論して頂き、テーブルでの意見は、後ほど共有したいと思います。それぞれの専門性、想いをふまえて、意見を読み解きつつ議論できればと思いますので、よろしくお願いします。

### 【吉村会長のグループ発言骨子】

[吉村会長]

今の資料を基に、皆さんの意見を伺いたい。

[市野委員]

資料4について。知多市は外国人が多いので、意見が反映されていない感がある。もう少し声を拾えるとよい。

[竹内(徳)委員]

市民インタビューを見て偏りを感じる。老人会、長く住む人の意見はどうだろう。自主的に活動している人の意見が多い気がする。

[吉川委員]

やはり活動している人は、知多市に愛着があり意見もたくさん出て、全体的に方向性も同じになる。昔から住んでいる人、70代や80代の人の意見はどこへいったのだろうか。地区の字(あざ)ごとの意見も必要では。

[竹内(栄)委員]

取りまとめを読んで素晴らしいと思った。市民が意見を言える場がある証である。市民活動センターを見ていると、エネルギーのある人、特に女性が多く集まっている。市民活動の中心は高齢者や女性で、そこから活力が生まれる気がする。女性の活躍が人口の減少を食い止め、流入人口を増やすことで店が増え、観光が盛り上がるのではないかな。

[近藤委員]

知多市在住ではないので、イメージが湧かなかったが、資料を読んで、「子育てしやすい」「人が温かい」といった知多市のイメージが伝わる気がする。活動している人の意見が中心だが、これからを担う若い人やマジョリティ(多数派)ではない人の意見をくみ上げるのが肝ではないかな。資料はまとまっている印象はある。

[富田委員]

前回参加した時の市民意識調査を見て、ワークショップ参加者との違いを感じていた。皆さんの意見を聞いて、ワークショップに参加している人は、意識が高く、前向きな人が多かったのだと納得できた。資料3の水色で囲まれた市民意識調査の第3位までの「知多市で生活していてよいと思うこと」は大事にしていった方がよいと思う。

[野尻委員]

知多半島は、全国的に見ても市民活動が活発で、非常に注目されている。地域福祉においても、知多半島は有名であり、知多市の役割は大きい。市民アンケートから、ただ住んでいるというだけでない、それ以上の市民性を持つ市民が多いのだと感じた。通常ワークショップをしてもここまでの市民性は出ないので、知多市は市民性が高いところ、と打ち出していかななくては、と思った。一方で、ここで拾えていない意見がどれくらいあるのか。これからの高齢社会を支えていく子どもたちの10年後、20年後を考えた時、このまま知多に住み続けたいと思ってもらうにはどうしたらいいのか、という視点がもう少しあるとよいのではないか。

[市野委員]

朝倉団地プロジェクトに参加しており、団地に出向くことが多い。そこでは日本人の子どもには見受けられないような、少し貧しい外国人の子どもを見かける。こういった外国人の子どもが元気に過ごせる場があるとよいのでは。知多市の今後を考える「未来塾」では、参加している中高生や大学生から意見を聞くと、能動的な感じである。元気に「自分たちはこうしたい!」と言える土壌を作っていかななくてはと思っている。

[富田委員]

ワークショップには高校生も参加し、意見を述べていたが、なりたい自分個人の未来は語っていたものの、みんなを巻き込んで何かやろうという感じではなかった。自分の活動（やまももおやこ劇場）の中でも、中高生は言われたことはしっかり行うけれども、主体的に動く姿はあまり見られないので、活動の中での課題となっている。

[野尻委員]

子育てが個別化している時代に育っているので、他者と手を取り合っというのは難しいかもしれない。市民アンケートであったようなたくさんの活動者と子どもたちの生活をどうつなぐのか、という視点があっても良いのではないか。

[竹内(徳)委員]

岡田に在住している。小中学校の校長先生と付き合いがあり、行事の際には小中学生に声をかけている。先日も防災訓練に小中学生の参加を呼び掛けた。彼らは楽しんでやってくれていたようだ。そういう場づくりをしてあげれば、いきいきしてくるのでは。ただ発揮の仕方がよく分からないのではないか。場に引っ張り出して役割を果たしてもらうことで、達成感を味わうことができるのではないか。

[竹内（栄）委員]

先日開催した産業まつりで、商工会青年部が主体となり、子どもたちに職業体験してもらう「チッタニア」を催した。青年部の担当が「どうしたら人が集まるか」と相談に来たので、校長会を紹介し、各小学校でPRをしたところ、始まる前から大行列になった。子どもは好奇心があるので、場さえ与えれば子どもの声を吸い上げることもできるのではないかと。大人の役目はそういうことだと思う。

[吉川委員]

学校教育においては、キャリア教育を大事にしている。教育の分野などで縦に切ってしまうのではなく、お互いに良いものを出しあって、子どもたちに伝えていこう、という形だと思う。地域、学校、子どもが横につながり、残していく、伝えるのは大事だと思う。知多市の行事もそうであってほしい。

[竹内（栄）委員]

昔は盆踊りなどがあったが、だんだん減ってきている。もともとの住民と新しい住民の間でかみあわず、土着の人の人口が減ったことが原因のようだ。しかし、岡田の祭りはどんどん発展している。先輩を慕って参画している若い人たちがいて、いい傾向ではないかと思う。その雰囲気もアンケートに反映されているのではないかと考えている。

[野尻委員]

知多市の教育ビジョンを見ているが、このビジョンがどのようにつくられているのかをまた教えていただきたい。学校教育課と市の計画が若干ずれていてマッチしていない市もある。そのような中で、知多市の教育をどうするか、総合計画への結びつきへの考え方がまだ見えない。教育目標として、生涯学習やスポーツ教育と書かれているので、生涯学習の中に市民性を育むなど、こことマッチしたものが含まれると縦割りにならないのではないかと。また、文部科学省が推進しているコミュニティ・スクールは、知多市ではどうなっているのだろうか。学校運営協議会はないのだろうか。

[竹内（徳）委員]

学校と地域を結びつける生涯学習地域推進員はやっている。地域の人材を活かして、教育現場のサポートをしている。

[野尻委員]

それでは、どこでもやっていることなので、もったいない気がする。知多市には市民性の高い市民がいるので、子どもと地域がつながるコミュニティ・スクールを率先して行うことができるのでは。

[竹内（徳）委員]

祭りに子どもを引っ張り出したり、小学生に岡田の街並みガイドをしてみないかと誘ったりしている。

[吉川委員]

学校の授業の中で地域を大事にしている、それぞれの学区で学校と地域が連携している。

[野尻委員]

今よりもう一步進んで、学校が地域に入る、地域に学校が出てくる、との違いである。学校づくりに市民が参画していく部分で授業を越えていく。市民性が高いから、実現の可能性はないのだろうか。

[吉川委員]

すべての学校ではできていないが、できつつある学校もある。

[野尻委員]

コミュニティ・スクールは国をあげて取り組んでいるとても大事なものである、うまくいっている学校があれば、それは知多市にとっても重要である。

[吉村会長]

市民性を育む取組を広い意味での教育に上手につなげると、子どもの能動性、やりたいことを育てるのでは、という意味合いではないか。

[吉川委員]

総合計画が学校教育すべてを含めて伝わっていけば、受け止めてもらえるのではないかと思う。

[吉村会長]

住んでいるだけではない市民性を大事にしながら、どう活かしていくのかという観点から、人柱的なものをつくる、その一環として今の教育の取組の中に活かす、形にしていくことが大事なのでは。

[長倉委員]

学校が地域の中に入るというのは、とても素敵だと思う。一方で、今の小中学校では日中、門を閉ざしており、それは防犯上仕方ないことだと思う。学校を開放することを怖いと感じる保護者もいるのではないか。

[野尻委員]

実質的な「開く」もあれば、学校教育をつくる上で意見が言える風通しのよい地域づくりに、学校も入っていることを目指す取組であるので、実際に人が行き来するかどうかは各学校の課題となるが、子どもたちの育ちをどう支援するか、地域と学校の壁を取り払ってみんなで方針を決めていく、ということだと思う。

[吉村会長]

物理的、心の問題といろいろな側面で考えなければならない。

[長倉委員]

先ほどの意見の中で、若い世代にいろいろな体験をさせるというのは、とても素晴らしいと思う。例えば、若い人でボランティアに積極的に参加する人も多い。でも、やり方が分からない時にヒントを与えることが大切だと思う。また、学校で学生に向けて、社会のワークルールを教えるべきではないだろうか。

### 【入江副会長のグループ発言骨子】

[入江副会長]

どの資料からでもよいが、ご意見を伺いたい。

[竹内（誠）委員]

資料3の「自然に恵まれている・緑豊か」が市民アンケートの1位ということであるが、私は農業をやっている。農業は後継者がいなくなったら、稲が雑草になってしまい、緑の種類が変わる。佐布里では雑草が多くなっている。緑を守るということは、知多市として大変なことになると思う。

米を作っても、なかなか収入にならない。私も農家として、次の世代に継がせようと思わない。やる気があれば、趣味の世界でやってほしい、というところである。

「自然」という言葉については、ほったらかしの自然なのか、人の手の入った緑の自然なのかが気になる。

[入江副会長]

緑が多義的であるというご意見であるが、農業の観点の緑もあれば、山林野山の緑もある。

[榊原委員]

私は農協の者であるので、農業が気になる。管理している農地、土地改良した農地は、取り合いであるが、それ以外は遊休農地になって、耕作放棄地になる。管理されている緑が、市民が魅力を感じる緑である。それなりにコストがかかる。農協の立場からではあるが、土地改良なりの整備を進めていけば、より管理される緑が増えると思う。また、農業の魅力を発信していくことが、知多市の産品を魅力的にする。知多市は、ペコロスや梅などがあり、これらの魅力を高めていくことで、管理してくれる人を増やしたい。緑が資料3の中心にあるのはありがたい。

地理的条件は、他にない魅力が出やすい。海は、知多市には新舞子などがあり、他に真似されることはないが、魅力とするのであれば管理が必要である。新舞子の海は、藻が多いなど、あまり入りたくない海である。昔は、お店などがあったが、今はあまり無い。駅の方には洋館もたくさんあり魅力があるので、もう少し管理をすると、観光として魅力資源になるのではないか。

東京の有楽町は、知多市と関連がある。大草城の城主であった有楽斎（織田長益）という人が東京に住んで有楽町という地名になった、と言われている。このような魅力を持っていても、知らない人が多いので、自慢していくことができればと思う。

[久野委員]

インタビューの対象者が、市民活動や、ワークショップに参加されている方で、アクティブな人のイメージ。名古屋市の実業もお手伝いしているが、言えない悩みを持っている人が、名古屋市、栄のセンターまで来ている状況。出てこない声が存在する。前向きに声を出せない人の声が欲しいと思うが、どうか。

[片山委員]

市民活動に参加されている人の意見がたくさん載っていると思う。子育て支援センターに来れる人はいいけれど、行けない人の声は、どのように拾っていくべきか。このままであれば、楽しいイメージの形だけで総合計画の検討が進んでしまうのではないか。

[生田委員]

子育て支援の情報でいうと、情報は自分から拾わないと入ってこない。自分が子育てで大変だった頃は自分から拾いに行っていた。家にこもりがちな人には、情報が入ってこないなので、誘ってあげることが重要である。子どもが小さい方に話を聞くと、子育て総合支援センターを使う人もいるが、うまく使えていないということも聞く。

[入江副会長]

あがってきていない声を拾うという観点でいくと、多様性への配慮がある。今回の計画では、ペルソナの視点があるが、そのときに、どれだけ多様に取り込むことができるか、社会的弱者まで目くばせできているか、が重要である。

[久野委員]

まちづくりについて、頑張っている人が頑張りを続けて疲れてしまう、というよりは、人口減少の中にあって、やれる人がやれるところまでできることを少しずつ、という観点が必要だと思う。そんなに好きでなくても、ポジティブでなくても、知り合いに誘われて少し位なら、という人をいかに巻き込めるかが重要ではないか。

[竹内（誠）委員]

誘いを聞き入れない人もいるので、どこかで線を引かないと難しいこともある。アンケートに答えてくれない人の声をすべて拾い上げるということは難しい。選挙と同じである。

[久野委員]

言いたいことがあれば意見を出してほしいと思うかもしれないが、物事が進まないときこそ、インタビューに答えてくれない人のところに何かあることもあるので、そこに思いをはせることはいいことかもしれない。



[入江副会長]

まちづくりでは、引き受けてくださる方のところに仕事集中し、ずっと長年続けられ、疲れてしまうということがあり、そういった問題はどこにでも発生してしまうかもしれない。

[峯神委員]

私はPTAの役員をやっている。ある田舎の小学校では、PTA活動に学校の保護者の約半数がPTA活動に関わっていて、PTAとして声をあげて活動をしていると知った。自分の子どもが通う小学校では、共働きの家庭も多いことなどから、小学校が気を使って、会議を減らして、できる範囲でお願いする、という形である。田舎の頑張っている小学校を見て、PTAが良い事をしていこうと声を出していくことも大事だと思った。偉い方からお願いされると恐縮してしまうが、同等なネットワークの人などから聞くと、困っているんだったら協力するという声が複数ある。

知多市には、協力してもいいという人が実は多いのではないかな。そういった方たちと上手くネットワークを広げながら、皆で知多市を盛り上げていけないかと思う。何ができるか具体的に考えて、みんながwin-winになれることを考えてみた。資料の中で、知多市の人柄と市民の活動の部分で、「温かい人が多い」「地域で見守る子育て」などが挙げられていたが、例えば1つの具体的なものとして、子どもに小さな器械を持たせ、公民館などに受信する端末を置くと、そこを子どもが通過すると、何時にどこを通ったか分かる子どもの見守りができるサービスがある。保護者や市民は携帯電話にアプリを入れるだけで、子どもの見守りができるようになる。小さなことでも、市民が少しずつ関わられるようなものがあると、知多市の人柄である温かさが活かされるのではないかな。

[入江副会長]

できるところから、小さなことから、という視点である。

[河村委員]

まちへの愛着形成をどうやって作るかという点で、アンケートに答えてもらえない方は、こちらからの情報発信が伝わっていないのか、あるいは無関係、無関心なのか。もし無関係、無関心であるならば、関心層にするための学習、情報発信の手立てを考える政策が必要ではないかな。

資料3のインタビューとワークショップからの意見は、セレクトされた集団でフィルターがかかっている意見であり絶対的なものではないので、市民意識調査を軸にすべきと思っている。

緑を守っていこうという話になると、活動をしている人たちを応援する仕組みを考える必要がある。まず、活動している人が頑張れる、続けられる、ということを手帳にしていって、その中で伝承していくこと、人材養成のための仕掛けが必要。応援する仕組みと、魅力の再発見を伝えていくことが重要である。再発見により、知多市を見る目が変わっていくことにもなる。

障がいのある人をいかに社会につなげていくかということや、若い人の社会への参画の方法を考えることも必要。具体的な体験や関わる場をつくること、愛着を形成できるような仕組みがあるとよい。

[松本委員]

インタビュー結果などは、意識の高い方が出した意見である。実際は、賑わいが少ない、買い物できる場所が少ないという意見もある。交通の便がよいと書いているが、実際にはほとんどの人が不便だと思っているのではないか。ただ、そう言ってもしょうがない。ないものねだりをしてもしょうがない。そう考えると、資料3はたいへんよいまとめだと思う。

1点だけ残念なのは、魅力資源として「海」が無いこと。海は知多市特有の資源なので、これは入れてほしい。

また、この資料から総合計画の施策に落とし込んでいくときに、お願いしたいこととしては、縦割り行政はやめて頂きたい。魅力資源をまちづくりに活かすためには、縦割りでは実現できないので、縦割り行政の壁を取り払ってほしい。

[入江副会長]

市民が、この計画を自分のものとしてとらえるためには、必要とするものがパッケージ化されていないと使えない。進捗管理の面でも、パッケージ化して見せることで、トータルで実現ができているか、ということをも市民の目線で見られるものにするのが重要。従来の行政の所管事務の割り方では、実現できないのではないか。市民の力、目線を活かして、実現していくことが重要である。

[松本委員]

農業の話で言うと、榊原委員からのお話のように農地改良、農地整備するとなると、それは都市計画の分野、一方で、作り上げたものを6次産業化していこうとなると、それは産業振興の分野、また、そのための工場用地の確保、物流にのせる必要も出てくる。さらに言えば、そこに市民活動が入ってきて、地域の方がものを作ることができるかもしれない、など関連する分野はたいへん多岐にわたる。

しかし、その活動ができ、儲かる仕組みができたら、農業従事者も増えるかもしれない。知多市として、農業を推していこうと考えるなら、それを総合計画に盛り込むべき。パッケージ化して、総力を挙げて取り組むなら、素晴らしいものができるし、緑も残る。回っていく絵は、市民では描けるが、行政では描けないことも出てくるだろう。

## 【全体共有】

[入江副会長]

皆様方から、大変活発なたくさんのご意見を頂戴しました。

まずは、「みどり」が資料3の真ん中に来ているのですが、放っておいて緑がそのまま定植する訳ではない、公共の緑であればきちんと後継者がいないと難しいことから、管理が必要になってくる。ただ、管理をするにしてもコストがかかるということなので、「みどり」をこのままうまく掲げていくのであれば、現在活動している方をどう応援していくかという仕組みも重要ではないか、というご意見がありました。また、資料2から4について、そもそも市民活動をしている方のご意見なので、大変ポジティブである。前向きで魅力を上手くまとめてはありますが、一方で候補に挙がってきていないもの、声に出せない方もあるのではないかとということで、それをどのようにして拾って、支援していくのかということにつ

いても、目配りをする必要があるのではないか、とのことでした。そういう観点でいうと、積極的に自ら手を挙げて市民活動をするという方ばかりではなくても、実は、人と人とのつながり、ネットワークの中で少しでも、何かまちづくりのために協力くらいできるよ、という市民の方も多くいらっしゃるのではないか。皆が同じ歩幅ではないと思うので、オールスターで、出来ることをやれる人がやればいいのか、というようなご意見を頂戴しました。

まちの愛着形成をどう育てるか、ということであると、情報発信や受け手側の市民の学習も必要ということで、自慢して良い魅力もたくさんあるので、それをうまく行政も伝えていく必要がある、というご意見も頂戴しました。

若い方の今後の生活の支援、という観点からすると、若い方のまちづくりへの関心、色々なチャンネルづくりも含めて、関われる場をつくっていかなくてはならないのではないか、というご意見も頂戴しました。

この取りまとめで、ないものねだりをしても仕方がない。ただ、今の魅力をどのように継続していくか、という中でいうと、この中に海があまり入っていませんので、海の活用をもっと入れるべきだというご意見、また、資料3の図を実現するためには、従来の縦割り行政の壁は取り払うべきではないかというご意見もありまして、私もそれは全く同感なのですけれども、受け手側の市民から見たときに、どのような政策がトータルで実現できるかというパッケージ化をある程度して、見せ方を考えるべきではないかということ。また、この総合計画の進捗管理をしていく上でも、そのパッケージという観点から、総合計画の目標が実現されているかどうかということをも市民の目線から確認していく、というようなことも必要なのではないか、という意見が出ました。

[吉村会長]

重なる部分については省略させて頂いて、こちらから出た、いくつかの少し違う観点からの意見をシェアしたいと思います。何人かからのご意見ですが、知多市にはそれなりの数の外国人が住んでいる中で、その人たちの想いが、見えづらいのではないかと。併せて、子ども達の意見についても、どこまで拾えているのか、という指摘がありました。同時に、70代、80代の高齢者の方々の意見はどうなのか、という話もありました。ある意味では、入江副会長のお話でもあったように、市民ワークショップに参加してくる人は、それなりの想いなどを持っている人ですし、インタビュー調査の対象になっている市民活動をしている人はもちろん、ある種の問題意識を持って取り組んでいる訳ですので、当然インタビューを含めた調査で想いは伝わっていると思うのですが、そうではない、拾えていない人たちの想いをこれからどうやって見ていくべきか、ということについては、同じような意見としてありました。

子ども達の問題に関しては、教育の問題についてどこまで触れていくのかが大事だということがあります。また、事務局からの説明でもありましたが、知多市の特色としては、ただ知多市に住んでいるだけでなく高い市民性を持った市民による様々な取組が行われている豊かさというものを、どのようにさらに活かしていくことができるのかという観点も大事なのではないかと思います。例えば、野尻委員からのご提案のように、学校と地域の関係についても、豊かな市民性を持った様々な人たちの色々なこれまでの蓄積をどうやって教育に活かしていくかということも大事だと思います。学校が地域に、という取組は今まで多くあったとしても、逆に知多市の持つ強みをどう活かした形で色々なことができるのかを考えることが大事なのではないか、という議論がありました。

多くの委員からは、本日の資料の取りまとめは、一つの取りまとめの形としてはいいものだという事は共有されていましたが、他方でまだまだ見えていないところ、拾えていないところも多くあるのではないかと指摘もあったように思います。その上で、よりどういうところを考えなくてはいいかということについては、この後の議論にも重なりますが、まだまだ議論しなければならないのではないか、と改めて私自身も思いました。

[吉村会長]

全体での意見交換は後で併せて行いたいと思います。今の資料4までの議論を受けて、資料5、資料6について、事務局から説明して頂き、その後引き続き議論をしていきたいと思っています。

## (2) まちづくりの方向性について

【「知多市で市民が幸せになるストーリー」について説明】【資料5】

【「まちづくりの方向性」について説明】【資料6】

[吉村会長]

ありがとうございます。まちづくりの方向性として、事務局側から重要なキーワードが12個挙げられています。委員の皆さんには忌憚のない意見を頂ければと思います。こちらのテーブルで出た、市民性の豊かさはキーワードになるかと思いましたが、総合計画プロジェクトチームの提案の中から資料5が作られています。設定したペルソナの全員が持ち家を望んでいるなど、ペルソナに偏りがあるかもしれません。適宜、キーワード、考えなければならない要素を議論して頂きたいと思っています。先ほどと同様、テーブルごとに意見交換をお願いします。その後、全体共有し、時間が許す限り全体の意見交換をしたいと思っています。

### 【吉村会長のグループ発言骨子】

[吉村会長]

「知多市の将来のまちづくりに必要なキーワード」の主語が「市民」なのか「行政」なのか、曖昧なところがある。他方で説明にあった「身の丈の」「ほどよい」は方向性を示しており「ほどよい利便性」には意図があると思われる。資料5と6で感じたことについて、ご意見頂きたい。

[富田委員]

気になるのは朝倉駅周辺の魅力化である。朝倉駅周辺の開発により商業施設に活気が出て、とあるが、イメージが湧かない。本当に朝倉駅周辺に人が集まるのだろうか。

[吉村会長]

大事な視点である。駅前がにぎやかであることが前提とされているが、本来的に果たしてそうなのか、また、そうするためにどうしたらいいのかという観点が必要ではないか。活気がないと暮らしが豊かにならない、ということではないと思う。

[吉川委員]

人口について、高齢化し、少子化が進むので、人を呼び込みたいという意見がある。少ない人口では何がいけないのか。財政的な問題などあるのかもしれないが、そういう考えでよいのだろうか。

[吉村会長]

知多市に魅力を感じて大事に思う人が来たいと思えること、広がることが大事。しかしながら、人口を無理に増やすために尽力するのは話が違ふと思う。個人的には、新しい価値観を前提に考えることがいいのではないかと思う。その価値観に対して、魅力を感じ、人が来るのはいいことである。利便性を高めて人を呼び込む、という単純な話ではない。

[長倉委員]

行きたいところへ行けるという視点は大事である。知多市は高齢化率が高いが、元気なお年寄りが多い。ただ、車の運転ができる間がいいが、できなくなると一軒家を売って便利な駅前のマンションに移るケースもある。病院、買い物などに手軽に行ける利便性は大切である。

[吉村会長]

車に依存するのも前提となっているところがある。高齢化の中での買い物支援などを考えるときに、車を使った支援以外の支援などについても考えなければならないのではないかと。

[野尻委員]

人口が減るのは止められない。地域福祉としては、このまま知多半島に住み続けると効率が悪いという研究者もいる。それでも知多市に住みたいとなったとき、生活をどうするのかを考えなくてはならない。生活の考え方を変えるなどが、資料5のストーリーにないのであれば、このストーリー上、みんな家族を持って幸せになる、みんな子どもを持つなど、幸せの価値観に偏りがあるのではないかと。自分が困った時のストーリーを考えて、集めてみるのもよいのではないかと思った。

[吉村会長]

先ほど、長倉委員がおっしゃっていた戸建てを売ってマンションへ移るというのは、売れるという前提ありきである。売れないことも想定される。郊外で公共交通機関が不便であったりすると、そう単純な話ではなくなる。そうなること、住み続けることを考えなくてはならない。

[竹内（栄）委員]

朝倉駅前の会議に出ていたが、駅前に商業施設、公共施設、南側にはマンションをつくるという絵を描いていた。人が来るための仕掛けが必要となるので、朝倉駅に人が集中し、都市の中の都市化になるということだろう。よそから来た人は駅から遠いところに住みたがらないので、家を売りたくても売れない。自分が育ったところも、車が入れないから売れないと思う。

地域に人が来れるようなことを考える、また、市の空き家の活用を考えてはどうか。空き家対策は行政にしかできない。岡田に古民家カフェが何軒かある。そういう視点で人を呼び込むことも必要であ

る。人口減では負け組になるので、人口増への仕組みが必要だと思う。

[近藤委員]

資料6の「知多市の将来のまちづくりに必要なキーワード」は混在している。「ほどよい利便性」「変わらない雰囲気」「ゆったり落ち着いた暮らし」などは、すでに実現しているものである。「世界とつながる」「いろいろな夢が叶う」などは、今までにないものを市の魅力として加えるもの。新たに取り組むための整理が必要なので、混在していることに違和感を覚える。

また、1のアの統計データなどの分析から、人口が社会減となっていること、事業所の数が少なくして市内で働く場が少ないという、課題が見えているが、その課題への対策がキーワードに入っていない。せっかく課題を見つけた中で、それを計画に落とし込むためのプロセスが混在しているのではないか。

[吉村会長]

大事な視点で、市としての産業のとらえ方、雇用のつくり方は重要である。市民性を大事にしながら、いろいろな市民活動団体が仕事、雇用を生みだしていくのは一つの方策であるが、それもあまりキーワードとして書かれていない。

これを課題と認識して対策を取るのか、もしくはこれが前提と考えて、その上で今後どうしていくのか、考えなければならない。また、すでに実現している部分と、これから取り組む部分が重なっている部分もある。見せ方として、今までできていなかったことをきちんとやる、今できていることをさらに充実させる、という分け方は一つの考えだろう。

[竹内(徳)委員]

資料6のキーワードは偏りを感じる。今あるものを前提に、それを続けながら良くしていくという取り上げ方なのかと考えている。

産業については、工業団地の誘致などは行っているが、今後、市の方向性として、誘致をさらに強力で推し進めて工業化していくのか、そうではなくて、ある程度の市民の働く場を確保しながらも、そこそこにしておいて、別の方向に進むのか。これまでもいろいろな取組をしているが、集約されていないかもしれない。観光協会でも、観光を、と声を上げているが、人を引っ張ってくる、お金を落とすともらうということばかりではない。

[長倉委員]

産業について、大企業の誘致は難しいだろう。また、後継者問題も大きくなっている。行政としての支援も必要ではないか。

雇用創出については、職を見つけたい人は都心に行ってしまう。中小企業は、採用力の問題もあるが、外国人の採用も現実としてある。

[市野委員]

朝倉駅周辺整備のイメージに、主語が市民とあるが、市民はどこにあるのか、というのが第一の感想。

ペルソナについては、持ち家があって家族4人で、という設定は、それはそれでよいが、実際には、結婚できなかったり、子どもが産めなかったり、といろいろな人生がある。田舎から都会に出たものの、心が傷ついて田舎に戻ってきた人たちが働ける場、受け入れられる場は、豊かな市民性が受け皿になるのではないかと。若い人が戻ってきたいと思えるような地域づくりをしていくべきだと思う。人口減の中でも、美浜町、南知多町では、多くの若い人、外国人などが、ライフワークとして、車がなくても畑があり、豊かな自然があり、その中で暮らしを見つけていくという、幸せの見つけ方をしており、それに賛同する多くの人々が都会などから移住する現象が起こっている。知多市も田舎の良さを活かすことができたらと思う。

#### [野尻委員]

美浜町や南知多町では、空き家バンクを利用したカフェができていたり、無農薬の野菜栽培をしている人がいるが、もともとの住人と新しい住人との間の溝がなかなか埋まらない地域もあると聞く。しかし、知多市がこれを考えるなら、市民性が高いのもっと可能性があると思う。

(広島県)尾道では、坂道のところに250世帯ほどが移住してきており、コミュニティをしっかりとつくっている。もともとの地域とつなげる人たちの存在もあり、とてもうまくやっている。観光客も小さな店に集まってきている。

また、学生から、認知症の人が店員を勤める「注文をまちがえる料理店」が名古屋に来るという話を聞いた。これからの社会では、認知症の方をどうお世話するかではなくて、その人たちが少しでも役に立てる社会を一緒につくっていく、また、外国籍の人が役に立てる、みんなが癒されるスポットなどをつくるのが、知多市にはちょうどよいのではないかと。

#### [吉川委員]

12のキーワードは、現状肯定しているものであると感じる。肯定するにしても、もっときめ細かい仕組みがないと、高まっていけないし維持することもできないと思う。とはいえ、ワークショップの参加者やいろいろな活動をしている人が現状をかなり肯定しているなら、キーワードとして出してもよいのではないかと。新しい言葉は、一から築くものなので時間がかかるかもしれないが、果敢に挑戦してつくっていくなら、まちの活性化にもつながるのでないか。

#### [富田委員]

利便性について、便利のところだけが魅力とは言い切れない。不便だからこそ豊かに暮らせるところもある。そういったところを残すことが、緑を守ることににつながるのではないかと。

#### [竹内(栄)委員]

農地について。調整区域ばかりで宅地がない。農地を農地として活用していないことが、まちづくりの視点に欠けている。「知多市で市民が幸せになるストーリー」でも、農地が守られるという一文だけである。例えば、農業法人を作り、行政が手助けし、市民がバックアップすればよいのではないかと。知多市の大半を占める農地の活用も議論に入れて頂きたい。

[吉村会長]

空き家が増えている一方、農地を宅地に転換していることは整合していない。緑や農地の使い方もしっかり考えなくてはならない。

[竹内(徳)委員]

常滑市、美浜町、武豊町周辺では、太陽光発電の設備がどんどん増え、山や農地が削られている。知多市は、そこまでならないように歯止めをかけたいと思う。

[吉村会長]

エネルギーの話もまだあまり議論されていないが、太陽光発電の設備に関しては、この先のエネルギー事情を見越して予防的に市の方向を打ち出すことも大事である。

[市野委員]

国際化について。北海道のニセコは外国人が入ってきて、観光地づくりをしている。それにより、中心地に外国人が住み日本人ははずれに住んでいる。知多市はセントレアが近く、外国人に空いている土地を買い占められることにならないだろうか。夢を描くことも大事だが、守るべきものも謳ってほしい。

[近藤委員]

その市に住もうと思うには、「衣食住」が満たされることが必要だと思う。最近の「い」は衣ではなく、「医療」「福祉」「介護」がポイントになるのではないか。病気になってからかかる施設ではなく、予防的に健康でいられること。キーワードとして健康づくりなどが出ているので、将来的に知多市としてどう考えているのか。2つめは「食」。この中に「食」が出てこない。「食べ物がおいしい」の1行しかない。食の開発も必要なのではないか。また、職業の「職」にもつながり、働く場、雇用先の確保も大事である。

[竹内(徳)委員]

バランスの取り方が重要になるだろう。

[吉村会長]

そこで「ちょうどいい」が知多市の特徴となるのかもしれない。すごくあるわけではないが、全く満たされていないわけでもない、という感じである。

### 【入江副会長のグループ発言骨子】

[入江副会長]

引き続き、よろしくお願いします。どなたからでもご意見頂ければと思う。



[榊原委員]

「幸せになるストーリー」のキーワードとして、「健康」があるのでは。健康な緑、管理された緑ということにもつながる。市民が幸せであるためには、地域のものを食べてもらい、健康になってもらいたい。「身土不二」という、育っている環境の四里四方（16km四方）でつくられている食べ物を食べると健康である、という考えがある。「安全・安心」なども資料にあり、似てはいるが、健康も良いのではないかと思う。

[入江副会長]

私もキーワードに「健康」が入っていないと思った。健康が入っていると良いと思う。

[竹内（誠）委員]

知多市には、佐布里にダムがある。梅まつりが有名で、県でも有数の規模である。ダムの周囲には長い距離の遊歩道がある。四季の樹木を植えるなど、ダムの周りを整備し、歩道の橋をつなぎ、ダムの周辺を大きな公園にすると良いのではないか。市民の健康づくりや人とのふれあいにもつながるし、知多市の魅力になるのではないか。

[松本委員]

資料3には、「緑豊かな自然をつかった健康づくり」とあるが、資料6のキーワードからは落ちている。資料3は良かったが、資料6では、その良さが見えなくなってしまった。資料3に、総合計画プロジェクトチームのエッセンスを入れ、整理してもらおうと良いのではないか。資料6は、行政用語になってしまっている。資料3ベースが良いと思う。

[入江副会長]

キーワードとすると、削げ落ちてしまう部分もある。

[松本委員]

健康づくりの中には、地産地消などの考えもあるので、農家の育成もあり、つながっていく、そういうストーリーをつくると良い。キーワードは、市民がわかる表現にした方が良いのではないか。例えば、歴史や伝統もたいへん特徴があるが、資料6では、「変わらない雰囲気」といったキーワードに埋もれてしまう。ことばとして、「緑」も「自然」もなくなってしまうのは、もったいない。

[入江副会長]

抽象的であるので、この言葉に含まれている、という説明になるのだろうが、逆に意図が分からなくなってしまふ。

[松本委員]

資料6として示されたとたんに、知多市だけではなく、他のまちにも当てはまってしまふ。

[河村委員]

知多市といったらコレという代名詞を出したい。知多市らしさ、というものを持っていく。緑ということがわかりやすいのであれば、その軸をわかりやすく出していくことが重要。

資料3が分かりやすいので、資料3のキーワードを軸にして、施策を考えていった方が分かりやすいのではないか。資料3を拡大する形で、施策を付け、行政でできること、行政ではできない市民に行って頂きたいことを付けて、読み取れるようにすると良い。1つ1つの資料は良いが、それぞれの資料の関連性を読み取るのは難しく、なかなか消化できない。

[久野委員]

資料6を見て改めて思うのは、知多市で子育てをしながら、健やかに暮らす人がイメージされていること。子育てをすることで、まちとつながることができたという実感はあるが、一方で、結婚しないと、子どもを育てないと、暮らしにくいまちでよいのか。未来を見据えたときに、包摂性があることが重要である。子どもが二人いて、ほどほどの世帯収入とほどほどの土地がある、というイメージではないところも包摂していく。最期まで暮らし続けられるまちのイメージが入るとよいのではないか。まち全体の包摂性をどう読み取ったらいいのか、ということを感じた。

[片山委員]

「幸せになるストーリー」として、障がいを持つ子どもを産んだ、事故にあって障がい者になったというものがない。障がいを持つ子が産まれたとき、また、障がいを持ったとき、知多市で安全安心に暮らしていけるタフさが必要で、悲観的にならず、楽しく生きていけるストーリーが入っていると思う。

[久野委員]

DVにあっても、なんとか生きていける、というようなポテンシャルがあるまちであってほしい。

[入江副会長]

たいへん共感するところであり、いつ正規雇用が非正規雇用に変わるか分からない現状で、10年後の経済状況は分からない。絵に描いた幸せな形だけでなく、様々な市民が住んでいる。不安定要素がある中で、市が目くばせしてくれる、楽しく暮らしていける、そういうメッセージ性を入れる必要がある、というご意見だと思う。

[松本委員]

総合計画では、どんな方々も、誰もが安心して暮らせるというのは基本。基本であるから、抜けてしまったのではないか。

[久野委員]

標準世帯に合わないところが排除されてきた歴史はあるが、そこを無視しては、今後は、国自体が立ちゆかないであろう。

[松本委員]

誰もが安心して暮らせるとなると、通り一遍の生活保護や福祉政策の話になってしまうが、知多市の場合は、市民のつながりもあり、安心して暮らせ、さらに楽しめて夢が抱ける、誰もが夢を描けるまち、ということではないのか。

[入江副会長]

そのときに、夢は百人百様であり、みんなが同じゴールに向かっていくわけではなく、それぞれ歩み方もスピードも違う。それぞれの人の夢や楽しみ方がある、ということだと思う。

[久野委員]

それぞれ、という部分をきちんと押さえていく必要がある。

[生田委員]

知多市として、人とのつながりがあることを感じるが、私の住んでいる地域は新しい地域で、昔からある地域と異なり、周囲の人をあまり良く知らない。よそ者同士が集まる新しい地域は、助けて、と言えない地域、お隣さんにこうして欲しいと言うことができない地域であり、そういう地域は増えていると思う。昔からある地域のようになるといいと思っており、そうするためにみんなで考えていく必要があるのではないかと思う。

[久野委員]

地域のつながりはプライバシーの問題とも表裏一体であると思う。そこをどう乗り越えるか。

[生田委員]

災害など、何かあったときにどうするのか。新しい地域が、どのようにつながるか、どのように共存していくか、考える必要があると思う。

[河村委員]

コミュニティの施策が重要だと思う。知多市では、10のコミュニティが市の施策としてスタートし、一定の成果を上げ、市民活動を行ってきた。10のコミュニティは、新しい地域や古くからのまちなど、その成り立ちが異なることなどから、それぞれ多様性がある。そのため、コミュニティの施策としては、広域的に行った方が効果的なものもあるとはいえ、地域のカラーを出した方が良いものもあると思う。これからのコミュニティのあり方については、地域住民の皆さんと議論し、共有できるものにすることが、松本委員のおっしゃっていた縦割り行政を横断的にすることを具現化するものではないかと思う。そのための総合計画の中での方向性を示すことができれば良いのではないか。

福祉的な現場で言うと、介護予防として、社会的な関わりがあって活動し、体も脳も使う、さらにそれがまちづくりへの貢献につながればなお良いが、そのための通いの場、情報基地が欲しい。月1回、週1回のサロンではなく、常日頃いつでも通える場で、そこに行けない方がいるなら、移動するための仕組みをつくり、例えばそこで買い物できるようにすればよいのではないか。マネジメントする人は

必要であるので、行政が人件費を支出し、人員を配置する、インフラ的な環境は整備するが、運営は地域で行うことにより、コミュニティごとに地域特性を出せる。コミュニティ施策を、市の全庁的な仕組みの中で、市民、いろいろな関係団体も含めて話し合い、実施していくことができると、自ずとまちづくりの方向性は地区ごとに出てくるのではないかと。キーワードとして、コミュニティ施策について話し合う表現が欲しい。

[久野委員]

対話の重要性が指摘された。キーワードとして、「対話のあるまち」はどうか。対話は面倒だし大変であるが、いい意味で面倒くさい、がないといけない。消費者として享受するのではなく、つくっていく側になるときに必要なキーワードである。

[松本委員]

ベースとして、「対話」はいいのではないかと。

[久野委員]

手間暇かけるまち、ということだと思ふ。

[松本委員]

とはいえ、対話を好まない人を受け入れる包摂性があることも大切である。

[入江副会長]

対話に入ってもらえない人にも目配りをする必要性がある。

[久野委員]

対話に入ってくる背景として、経験や歴史があるのではないかと。

[竹内（誠）委員]

人の潤滑剤をつくるのが、コミュニティの活動であると思ふ。運動会、敬老会、ボーリング会などをやっている中で感じるのは、誘っても出てこない人のことは、分からないということ。本当は来て欲しいが、どうやったら来てくれるか悩んでいる。来る人は来るし、来ない人は来ない。人間性もあるように思ふ。何とかしようと思ふのだが。

[松本委員]

何とかしなくてもいいと思ふ。そういう人も受け入れるということ、拒まないことが重要ではないか。

[入江副会長]

あるいは、色々なツール、チャンネルでのアプローチもあるのではないかと。

[峯神委員]

私は、古い地域に嫁いだが、後から地域に入った人間としては、入りづらいということはある。地域の役員を引き受けたり、多くの人と触れ合うなどしないと、なかなか仲間には入れてもらえない感じがする。仲間に入れる人は良いが、積極的に入れない人には、壁ができてしまう。しかし、困ったときは、助けてほしい、ということもある。助けてほしいときに、助けてもらえるような場所や仕組みがあるといい。

買い物に困っている高齢者の方がいたとして、タブレット端末があればインターネットで買い物ができるのでは、と思うが、教えてあげる人がいない。自分の母にも、私しか教えてくれる人がいない、と思う。教えてあげる人がいればいいと思うが、それだけでは、人と接する機会が少なくなってしまう。空き家が増えているのであれば、空き家を活用して、買い物できる仕組みをスーパーなどと提携してつくることのできるのではないか。人が集まって、そこに行かなくても助けてもらえるような仕組みもあればよいと思う。

最近母がスマホを持ち始めたが、SNSのグループ設定をしてあげたことで、母がとても喜んでSNSを活用している。その延長で買い物もできるはずである。

[入江副会長]

助けてほしい人が、助けてもらえる仕組みづくりであり、従来の行政の発想では、出てこないことである。そういうところにこそ、市民の知恵や活動が活かされると良いと思う。

[河村委員]

先ほど、情報基地の話をしたが、例えばSNSについて知りたい人がいるときに、それを教えてくれる市民が集まれば、そこに対話が生まれる。目的があれば、人は集まる。介護予防として、また、障がいを持つ方を含めて、社会に出たいと思う方が通える場があり、移動支援の仕組みをつくることにより、積極的に通いの場に誘うことができるのではないか。そこにトラック市が来て買い物できる、もしくは帰りにスーパーに寄るコースを設けて買い物できるようにすると、必然的に出てこれるようになるかもしれない。

出てこれる方はよいが、出てこれない方に対しては、こちらから訪問する仕組みとして、ヘルパーなどの制度だけではなく、住民の皆さんが気にかけてできることがあると思う。例えば、コミュニティの中で、花いっぱい運動など、みんなで花植えをする活動があるとき、活動の後に気になる方のリストをもって家を訪ねる関係性をつくり、今度何かのイベントがあるときに出てこないか、と誘ったりできるのではないか。また、掲示板などを活用して、助けてほしい人と、助ける人をつなぐ仕組みを、小学校区単位ぐらいで丁寧にとできると良いのではないかと。知多市の市民性であれば、手伝ってくれる人はいると思う。

[竹内（誠）委員]

コミュニティ活動では、勉強会など、行事をいろいろ考えている。スマホの教室、というのはいいと思った。太鼓、囲碁などをやっているが、時代に合ったものが必要であると思った。また色々なアイデアを教えて頂きたい。

[松本委員]

若い人が来ると、多世代間の交流になる。若い子がおじいちゃんに教えること、その逆も考えられる。あるお祭りで、おじいちゃんやおばあちゃんが子ども達に、けん玉やベーゴマなどを教えていたが、子どもがすごく喜んでいて。

## 【全体共有】

[吉村会長]

議論されたことの中で、是非とも共有したい話を幾つかしようと思います。

総合計画プロジェクトチームで考えられてきたペルソナについて、全員が持ち家を望んでいるなど、設定に偏りがあるかもしれない、という話をしましたが、他にも、家族2人に加え子どもが何人かいて、という設定がされていますが、現実には結婚するかどうか分からないし、子どもが生まれるかも分からないし、結婚しても離婚するかもしれないし、と多様なライフスタイルがあることを前提とした場合に、もう少し議論すべきことがあるのではないかと、ということは挙げられていました。また、「知多市の将来のまちづくりに必要なキーワード」については、見方は色々あるのではないかと指摘がありました。吉川委員からは、これは基本的には現状の肯定で、これをいかに維持、あるいは充実していくのかというところが、知多市の今の意識調査やワークショップなどから出てきている想いなのかな、理解できるのではないかと、という意見がありました。近藤委員からは、既に実現されているものとこれからやっていかなくてはならないことが混在しているので、少し分かりにくいのではないかと、という話もありました。例えば、「日常の多文化共生」や「世界とつながる」などは、まだまだこれからトライしなくてはならない話だと思いますし、「安心して子育てできる」という話は、ある部分実現されているものかと思いますが、これからも社会が変わっていく中で、よりもっと充実しなくてはならないことという観点から考えるべきこともあるのではないかと、という話がありました。

また、産業のあり方や雇用、あるいは仕事の捉え方のところの議論は、もう少しする必要があるのではないかと、という話もありました。大規模な工場を誘致するなどの話は、もうあまり考えにくい中で、どういう形で仕事をつくっていくのか、仕事をしていくのか、あるいは知多市の中で起業していくのか、その辺の雇用や産業も含めた議論はもう少ししていかなければならないのではないかと、という話もありました。

農業の話について、資料5では「農地が守られる」と一言だけ触れられていますけれども、知多市の一つの特徴としてある部分なので、それについてももう少ししっかり議論する必要があるかと思えます。そこから派生して、例えば太陽光発電設備のようなものをどんどん作ってきた常滑市、南知多町、美浜町のようなことは、実は知多市では起こっていない。結果的に、それが原因で色々な紛争が起こっていたり、過剰に作り過ぎた結果の問題も出てきていることが現状であるとすれば、そういった問題に対して、予防的に今何をなすべきか、という観点から考えておくことも大事なのではないかと、という話がありました。そういう意味では、農業、農地の問題、あるいは緑の問題、エネルギーの問題というのは、やはりもう少し議論する必要があるのではないかと、ということもありました。併せて、近藤委員から、衣食住にからめて、衣食の「衣」については、医療の「医」も含め、医療・福祉・介護などその辺りのことをどう考えるのかをもう少し議論しなくてはいけないのではないかと、また、食に関しても、雇用に関する「職」も

ありますし、食べる「食」もペコロスの話は色々出てきていますが、もっと知多市ならではの食や「美味しい」の議論があってもよいのではないかと、という話も出ていました。

また、空き家の活用や、今、名古屋から知多半島の南部に若い人たちが移住・定住で動いている中で、空き家を活用したカフェなど色々な形で呼び込んでいる取組がなされていますが、知多市なら知多市の特徴も活かした、また別の形でできることもあるのではないかと。特にこういう問題になってくると、地元の人たちが新しい人をどう迎えるのかという事も含めて考えていった場合に、知多市ならではの豊かな市民性であるとか、岡田も含めて、知多市それぞれの持つ豊かな地域性との兼ね合いの中で、人を呼びこむ、あるいは進んで行きたいと思う人たちとどうやって一緒に暮らしていくことができるのか、という話も、もう少し議論があっても良いのではないかと、という話もありました。

また、長倉委員から、知多市の不便さに関して、バスもなく、公共交通も不便なところもあるので、戸建てを売って、東海市のマンションに引っ越すというような話をイメージとしてされていましたが、現実問題、そもそも戸建ては売れないかもしれないことを前提としたときには、むしろ不便であることを活かした、あるいはその中でどうやって豊かな暮らしを考えていくか、という視点ももっと持ちながら考えていくことも大事なのではないかと、という話もありました。

#### [入江副会長]

今回も、たくさんのご意見を頂きました。資料6のキーワードを見て、「健康」というものが落ちているのではないかと、というご指摘があり、「健康」というのは、人の体の「健康」「安心」「安全」もあるけれども、「健康な緑」という観点もあるのではないかと、というご意見もありました。資料3と資料6との兼ね合いについてなのですが、資料3のまとめ方はたいへん良かったのに、資料6のキーワードになると、削ぎ落ちてしまっていて見えなくなってしまうのが残念だ、というご指摘がありました。むしろ、資料3を基にストーリー化すべきではないかと、というご指摘、資料6のキーワードにしてしまうと、歴史も落ちている、というご指摘もあり、他市でもそのまま当てはまる、知多市らしさが抜けてしまっているのではないかと、というご意見がありました。資料3を基にして、ということで言いますと、ここにもう少しデモ施策を貼り付けていくとか、行政で出来ること、市民で出来ること、というようなものを付けていくというまとめでもいいのではないかと、というご意見もありました。

また、この資料6のキーワードについて、これまでの資料でも同じことがあったのですが、知多市で健やかに子育てして幸せに暮らしている人がイメージされている感があって、ただ今後の未来を見据えたときに、包摂性をどのように兼ね備えていけるのか、というご指摘がありました。例えば、子どもが障がいを持って生まれてきたとか、生まれた後に障がいが明らかになってしまったというときでも、楽しく生きていけるストーリーもあるべきだというご意見がありました。

総合計画というのは、誰もが安心して暮らせるということがベースになっているということですが、そのときに、ケースのモデルになるような家庭や人以外のところを、抜け落ちない様に逆回りをしていく必要があるだろう。そこでいうと、つながりということがもっと出てきてもいいのではないかと。知多市としては、それがさらに、資源は人と人とのつながり、人柄ということが強調されていたので、個人個人が楽しめる、夢が描けるということが、もっと強調されてもいいのではないかとというご意見がありました。そのときの夢を描くというのも人それぞれですので、様々な夢があって然るべきですし、百人百様であるべきではないかと、とのことでした。

知多市の中でも、地域によっては地域性が違うということで、もともとの旧住民の方と新住民の方がいらっしゃるといふことで言うと、地域のつながりが希薄である中では、新住民の方々もまちづくりにもっと取り組んでほしい、というご意見もありました。そこからのつながりで、コミュニティの施策についてご意見がありまして、知多市には10のコミュニティがありますが、10の方向性が違っていいですし、違うこともあるだろう。その中で、よく議論をして、地区ごとのまちづくりというものがされていくべきだ、という中では、河村委員からのご意見ですが、介護予防の基地があってもいいのではないか、というものです。それはサロンなどではなく通いの場としてあったとすると、いつでも行けるような場所として、そこで買い物も出来たり、交通網もそれに合わせて整備されたり、ということがあるといいのではないか、というご意見がありました。

また、キーワードに挙がっていないところで言うと、「対話のあるまち」というものが挙がっておりまして、対話は時にして面倒臭い訳ですけども、いい意味で面倒くさいまち。それは、お客さんとしてそのまちに住んでいる訳ではなくて、まちづくりのつくっていく側として関わる立場としても、やはり対話というものが必要になってくるのではないかと。対話に入って来られない方々を排除するという訳ではなくて、色々なツールやチャンネルを通じてアプローチするのはもちろんですが、そういう方々も包摂していくというような方向性も示されるべきではないか、というご意見でした。また、助けてほしいときに助けてもらえるような仕組みがあってもよいのではないかと、というご意見から、先ほどの介護予防の基地と対話ということが包括的にこの中でつながりまして、すごく盛り上がり、事業ができそうな勢いでした。この対話の場として、例えばコミュニティごとの情報基地、介護予防の基地というものがあってもよいのではないかと、それは例えば住民が運営に関わってもいいし、社会福祉法人が関わってもいい。その中で人と人との関係性が出来ていき、例えば掲示板でお互い、助け合いのメッセージを共有するとか、スマホ教室を高齢者向けに開催するとか、逆に高齢者の方々が伝承遊びを教えてあげるとか、色々な人とのつながりのようなものが、所属区単位などであってもよいのではないかと、というご意見がありました。

[吉村会長]

ありがとうございます。残り5分なのでですけども、せっかくなので、全体での意見交換ということで、お二人くらいからご意見があれば、意見交換したいと思うのですが。

### **【全体での意見交換】**

[久野委員]

文字にしていくことはとても難しい、と感じます。どちらのテーブルでも、恐らく熱量のある議論がされたと思うのですが、それを紙に起こそうとすると薄まった感じになるのを、私たちはどのように乗り越えていけばいいのだろうということは、事務局だけではなく、委員としてもどうできるのだろうか、ということを考えてみました。

[野尻委員]

文字に落とすというところで、総合計画を基盤として各所に計画があるのですが、今言われたことが全



部書ける訳ではないのですが、ここに何を書くかで、また、そのポイントの要素をどこまで表しておくかで、それを見て次の地域福祉計画を立てるときに、地域福祉計画が豊かになる、などということがありますので、意図的にそこをやって頂かないといけないのだろう、と思いました。

[吉村会長]

お二人の意見は、大事なポイントです。第1回に事務局から話がありましたように、総合計画を単なる行政の計画だけではなく、公共計画、むしろ市民を含めて、主体的に関わりながら実現していくものにしていきたい。その上で、全体の計画だけではなく、個別の計画に波及的に結びつけていくことも大事である、と思っています。このあたりは皆さんと考えていきたいです。

「知多市の将来のまちづくりに必要なキーワード」の主語は、市民、行政、協働なのか、混在しています。そのあたりの整理も必要ですし、久野委員のおっしゃるようにみんなが共通で理解できる、あるいは外国人を含めたやさしい日本語で分かりあえて、共有できることが大事です。多くの人と共有できるように、落とし込んでいくことが、一番の困難な部分であるとは認識しています。委員の皆さんと共にアイデア、知恵、意見で乗り越えていきたいと強く思っています。

時間が来ましたので、本日の議論はここまでとします。次回は2月13日とずいぶん先になります。個人的には、適宜、作業の結果や成果を見て共有していきたいと思っています。皆さんから頂いた意見や課題を踏まえ、丁寧なプロセスを経ていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

最後に、次第（3）その他を事務局からお願いできますか。

[事務局]

活発な意見交換を、どうもありがとうございました。前回同様、頂いた意見を取りまとめまして、共有させて頂きたいと思っております。会議録を皆さんにお送りさせていただきます。

次回の審議会は、2月13日午後3時からを予定しております。会場につきましては、後日お知らせさせていただきます。

また、その次の審議会でございますが、4月23日に開催する予定でございます。時間は午前中かと考えていますが、詳しくは近くなりましたらお知らせさせていただきます。ご予定ください。

[吉村会長]

本日は、これをもちまして、第3回知多市総合計画審議会を終了させていただきます。長時間にわたり、ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

以上